

# Teacher Agencyが支える

ほこさき

# フィンランドの教育の“**最鉾端**”から

大阪教育大学 柏木賀津子, Ph.D.

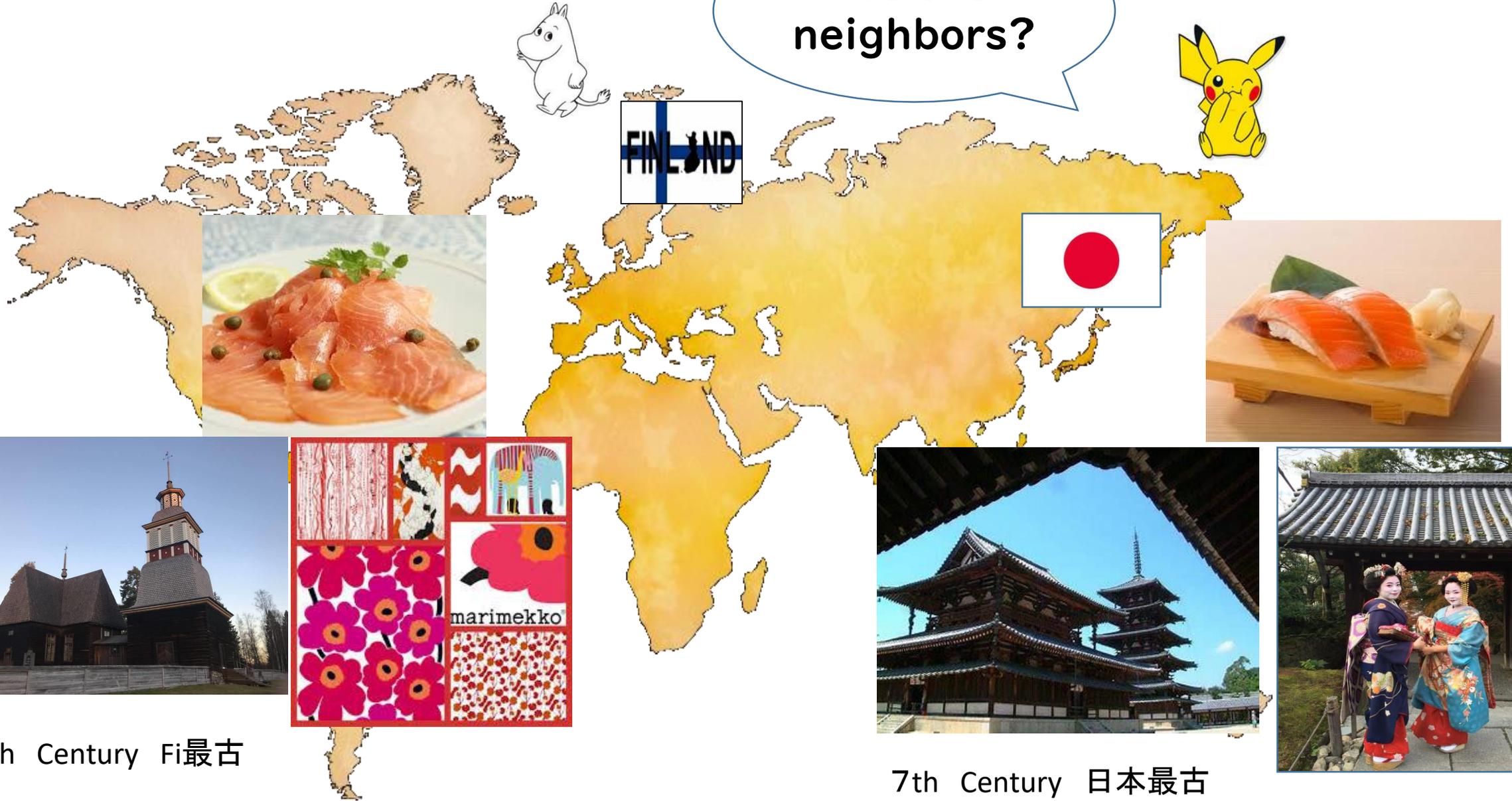
[kashiwag@cc.osaka-kyoiku.ac.jp](mailto:kashiwag@cc.osaka-kyoiku.ac.jp)

連合教職実践研究科

実践フォーラム 2019年8月17日(土)

# 1. フィンランドと日本

We are neighbors?

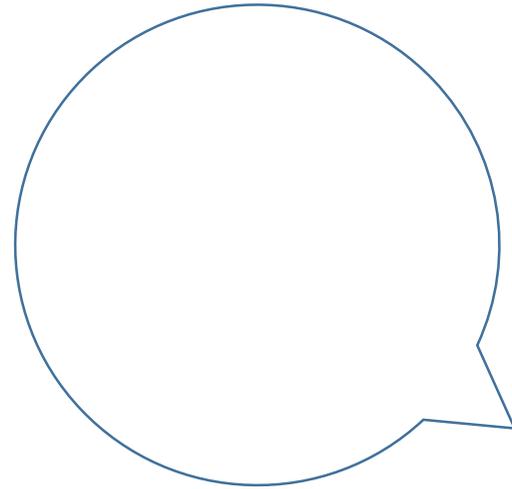


18th Century 最古

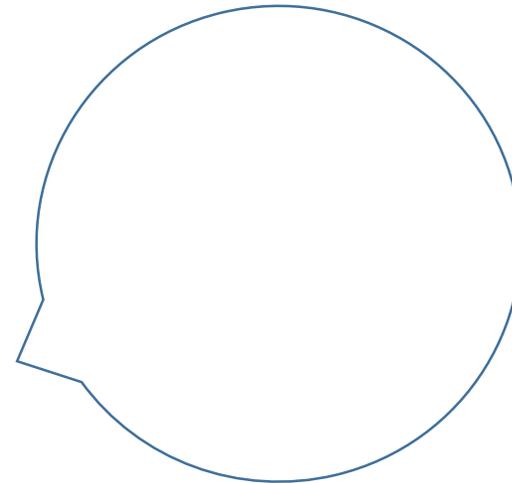
7th Century 日本最古

# はじめてのフィンランド語

# フィンランド-Suomi



Olen kotoisin **Japanista**.



Hyvä





**Kuksa**



**People naked enjoy and chat with friends**





**Panasonic**  
**P51**



# EUから見た日本

16 companies of Japanese car companies are graded out of 22 most safety class

一番安全な車製造会社22社のうち16社は日本から  
“safety” and “credibility” 「安全性と信頼」



ものづくり

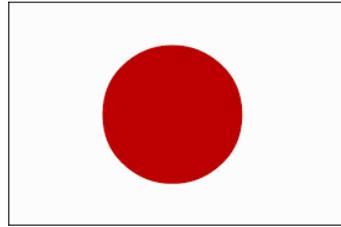


ムラタセイサク君\*プロフィール  
誕生日: 9月29日(てんびん座)  
出身地: 京都府  
身長: 50cm

Make it smarter  
「より小さく 精密に」

# Top 100 Global Innovator 2018

39/100



Toshiba, Omron, Canon, Sony, Honda, Toyota, Komatsu, Panasonic, Kyocera, Mitsui, Nissan, Toyota, Bridgeston, Daikin, etc.

1/100



Nokia

31/100



Apple, Amazon, Google, Microsoft, General electric, Johnson&Johnson, Nike, Intel, Marvell, etc.

保有する特許データを基に知財・特許動向を分析し、世界で最も革新的な企業・機関を選出したデータ

# 未来の社会を支える フィンランドの教育は？ 日本の教育は？



科学リテラシー  
日本(4位)  
フィンランド(5位)

読解カリテラシー  
日本(4位)  
フィンランド(6位)

PISAがはかろうとする学力  
義務教育を終える若者が「今まで何を学んだか」でなく「これから何ができるか」(活用力)

社会的技能・問題解決技能  
異なった文化を理解する力等

2013年12月のフィンランドの新聞(PISA2012結果)

Vasa, 4<sup>th</sup> of Dec.2013

# 21世紀の社会を支える 地球規模の協働的なプロジェクトは、〇〇国が〇位という議論ではない。



私たちは、一世代前ならまったく不可能であったことを成し遂げた。(2019年4月10日)

- 技術的なブレイクスルー、
- 世界中の最高の8つの望遠鏡たちをつなぐ
- 革新的なデータ処理アルゴリズム
- 6本の論文

すべてがあわさって初めてブラックホールと事象の地平面に対するまったく新しい窓を開いた。



『アストロフィジカル・ジャーナル・レターズ』 特別号に2019年4月10日付

## 2. 在外研究に臨む前の私の「目あて」

□ 「言葉の教育」“<sup>ほこさき</sup>最鉾端”の指導を見る

(エスノグラフィー・観察・半構造化インタビュー)

□ 異分野連携の大学・博士課程の教育に入りこむ (CALS 国際共同研究の方法 CLIL教科連携)

➡ □ どのようにして教育改革が進んでいるのか

(EU・PISA・スクールリーダーシップ)

□ 自分の研究について、スキャンジナビアで学会発表をする (NERA教育学会, TDL言語学会)

# 滞在先

## ユバスキュラ大学

Center for Applied Language  
Studies (CALS)

博士課程応用言語研究所

学生・院生 15000人

教員 2500人

修士と博士教育は英語で行われている。  
教育学部は内容により、フィンランド語



所長 Nikula, T. Ph.D.

リサーチ ミーティング  
博士課程の運営について



Erasmus + 教員が異文化Contactを



CLIL (教科連携) 教員講義を担当



中学校 カフェルーム  
学校運営について、シャドーイング

# Department of Education (教育学部)



博士課程の講義に参加      スピードと宿題の量に圧倒された最初の2か月      惜しめないパートナーシップ  
世界にはばたくときに、日本の若者が超えないといけない”WALL“

- 高いプレゼン力+複合言語リテラシー      (母語+英語+Sweden語+〇〇語)
- 高度なICT活用(創造的に使う)      Wifiアクセスは国民の人権
- Active Learning力      グループの考えをまとめる力
- 寛大さと自立性・・・幸せランキング1位の秘密

# フィンランド人の不思議



# 今の皆さんのイメージは？

日本の教育は、〇〇だ。

丁寧  
個別補習

クラス人数  
多(40人)

予算が少ない

学校と教師  
の自立性

教師の多忙  
(説明・生活  
指導・部活)

現職教育  
に良さ？

フィンランドの教育は、〇〇だ。

行き届く  
個別指導

学校と教師  
の自立性

予算が多い

クラス人  
数少  
(18人)

教師の余裕  
(16時帰宅)

教育実習  
の充実？

主張してみよう。イメージ・独断でかわまない。

多くの国で上手くいってない点が、両国では進んでいて、教育者の手によって工夫の余地があること（私見）

## 日本の教育

学校と教師  
の自立性  
(?)

現職教育  
に良さ  
In-Service

## フィンランドの教育

学校と教師  
の自立性

教育実習  
の充実  
Pre-Service

授業の充実  
「教えて考え  
させる」

### 3 「問い」を一般化・概念化・根源化してみる

日本の教育は、〇〇だ。

フィンランドの教育は、〇〇だ。

→影響を問う質問にしてみてもは？

～が、～に。

→度合いを問う質問にしてみてもは？

何が、どれぐらい～。

# 問いに対して、何をもとに主張できるか？

お父さんが、〇〇と言っていたから・・・

新聞で、一度みたことがある・・・

1週間旅行した記憶で・・・

僕は自分の目で見たものしか信じない。  
けど、この目で見たものはどんな馬鹿げ  
たものでも信じるよ。『そのうち』なんて  
当てにならないな。今がその時さ。

*Tove Jansson—through Snufkin*



言語



知覚



理性・論理

感情

想像

直観

記憶

Way of Knowing (8つの「知る方法」)

# 問い

「何が影響して、教育改革が進んだのか。」

予想してみよう・・・

だれが・・・

どうやって・・・

教育行政・環境的なもの・・・

教員養成は・・・

教師は何を・・・

教師のやりがいには火をつけるものは・・・

生徒は、どう変わった・・・

# フィンランドと日本の教育の類似と相違

(一般的データから)

福田, 2007 Sahlberg, 2011 PISA調査2015年

+母語+2~3言語  
コミュニケーション  
力

+勉学に関する  
ICTリテラシー

+論理的思考  
+シチズンシップ

プロセス重視 How

理数に少し課題



共に学力はトップクラス

母語リテラシーもトップクラス  
(日本は特に)

シャイ

自己効能感が低い

+理数はトップクラス

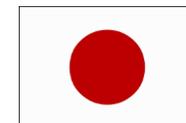
+日本固有の文化魅力

+集団・チーム・規律?

結果重視? What

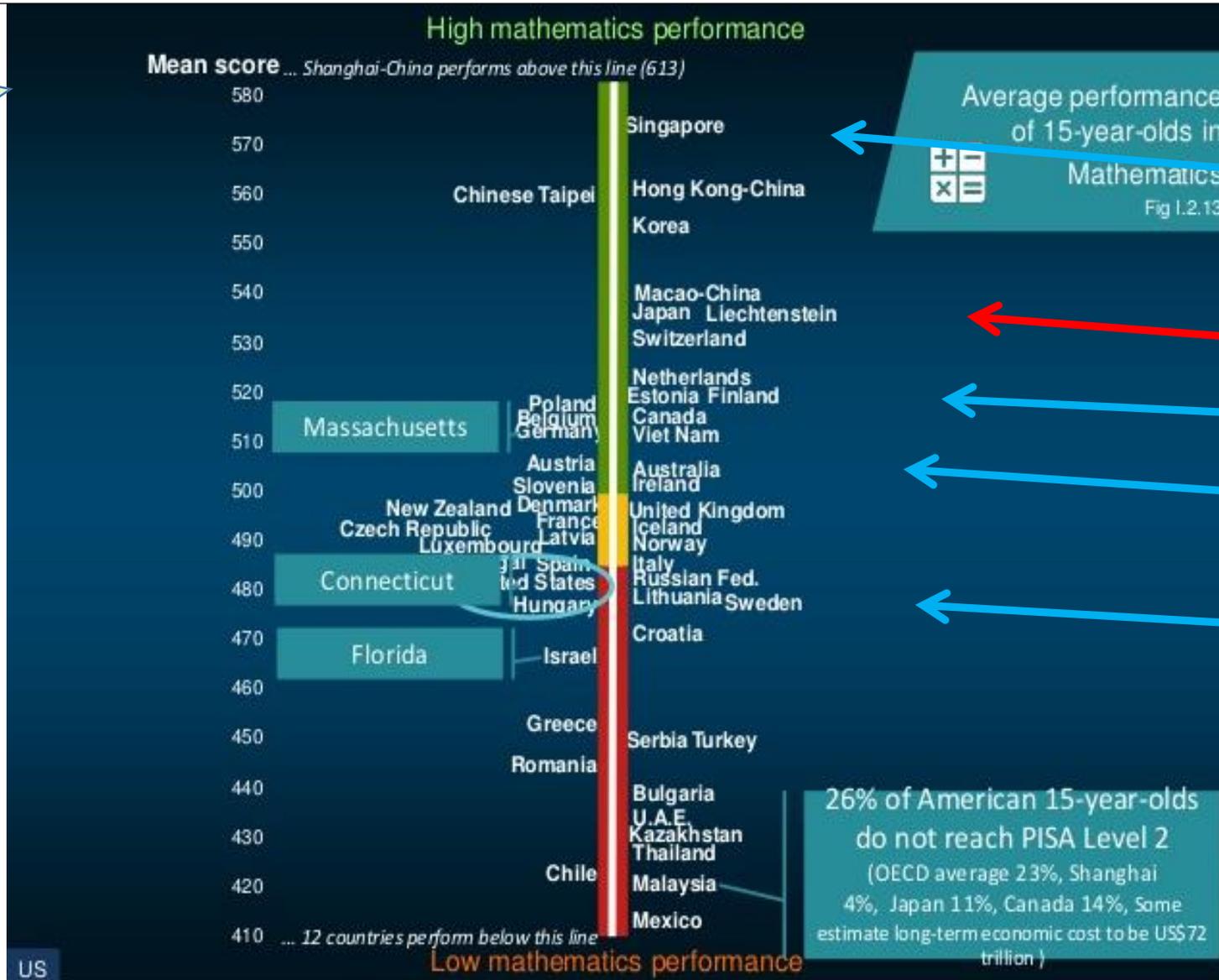
シチズンシップ

コミュニケーション力



# PISA2012 数学分野の概観

縦軸は平均スコア



シンガポール

日本

フィンランド

オーストラリア

スウェーデン

# PISA 2012 数学のパフォーマンス平均と自己効能感の相関

縦軸-平均スコア

日本  
フィンランド



横軸-自己効能感

シンガポール

日本

U.K U.S.A

# フィンランドの教育制度

## 資料① 教育制度

全ての大人・教員は博士課程進学可能  
(誕生から博士まで無償)

教員は学士(3年)  
修士(2年)を修了する

高校・職業学校の  
両方から大学進学  
が可能

16歳までの平等性・均等性

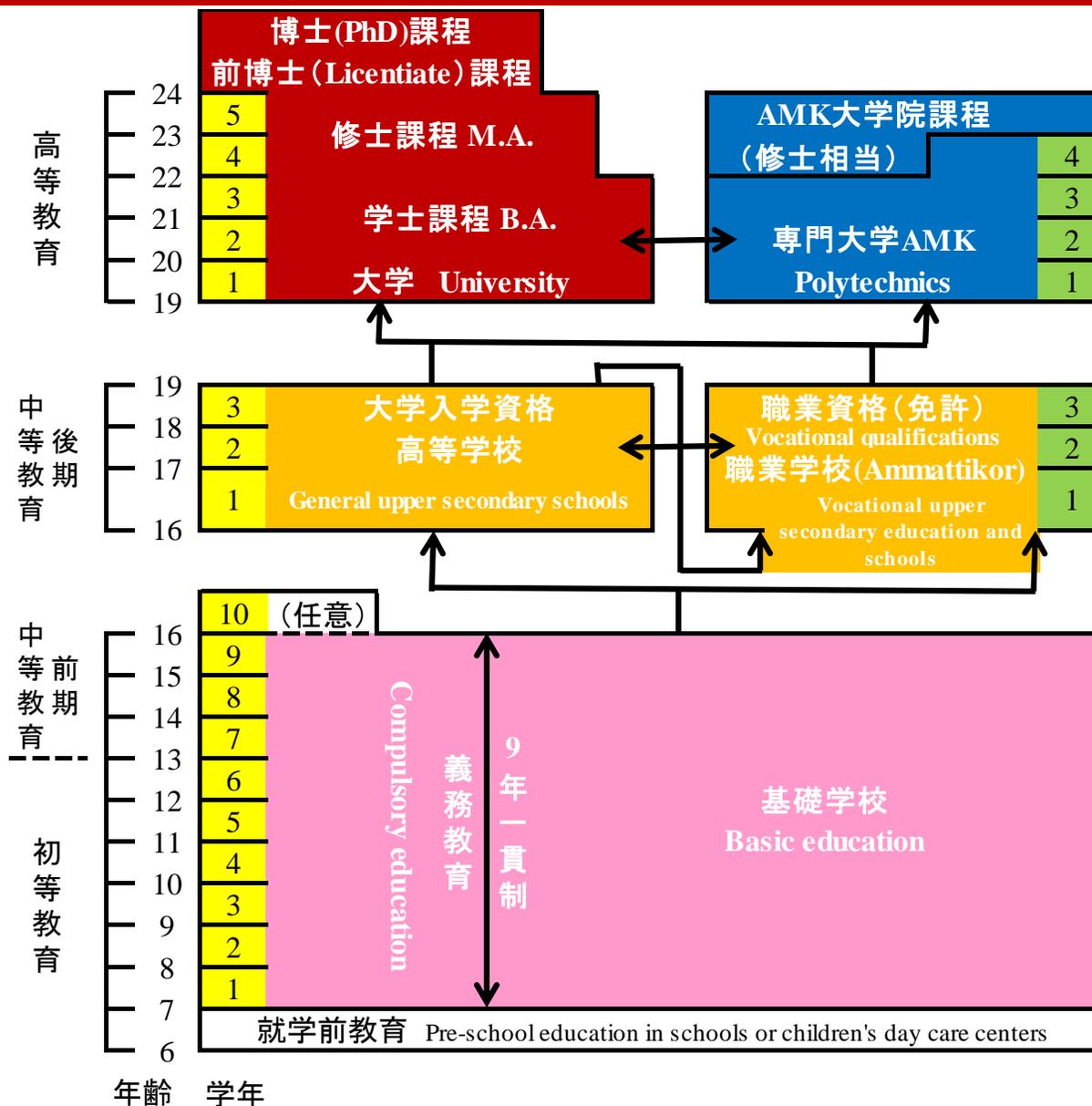
**Equality**

その間のテストは15歳時のみ

公立学校98%

私立学校2%

**ネウボラ**制度(就学前から  
10歳ぐらいが対象)



注)

①就学前教育と主学年齢  
フィンランドでは、7歳を過ぎてから基礎学校に入学するため、6歳を過ぎてから小学校に入学する日本より、学齢は1年遅い。

②第10学年  
フィンランドでは、9年間の基礎教育(義務教育)のあと、任意で1年間の補習プログラムを受講することができる。通常、希望する上級学校に入学できなかった生徒がこのプログラムを受講する。

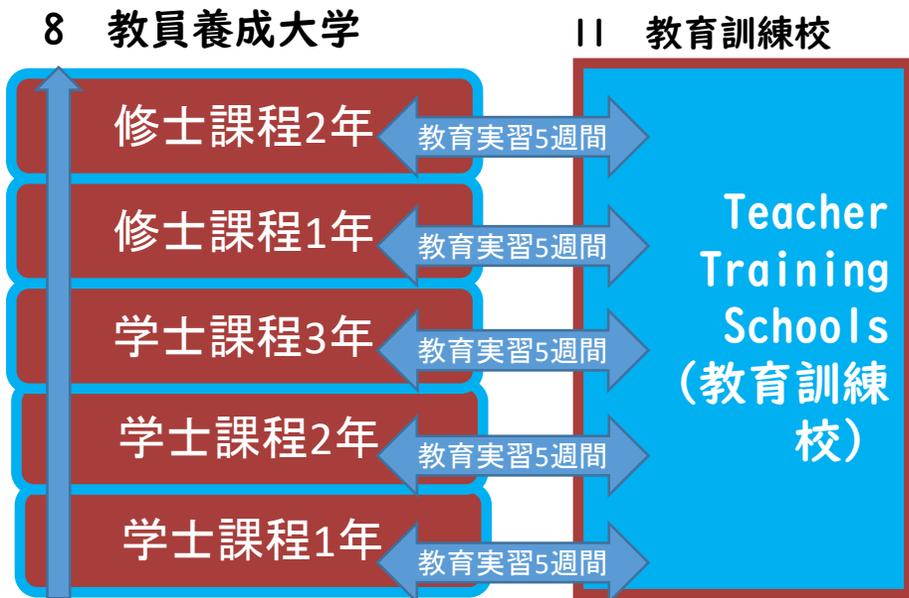
③高校進学時の合否基準  
高校進学の際の合否基準となるのは、基礎学校での成績である。そのため、近年は、基礎学校における成績評価の標準化を進めている。

④AMK  
Ammattikorkeakouluアンマッティコルケアコウルは、フィンランド語で高等職業教育学校を意味する。英語では、ポリテクニクPolytechnicsと訳されている。これは、イギリスのポリテクニクを語源とするが、フィンランドのAMKは制度上異なっているため、ここでは、「専門大学」としている。

# 教育実習 (5年間)

## フィンランドの教員養成制度(教育実習)

One of 11 Teacher Training Schools connected to Faculties of Education at 8 university  
(8教員養成大学と11教育訓練校が連携して教員を養成している)

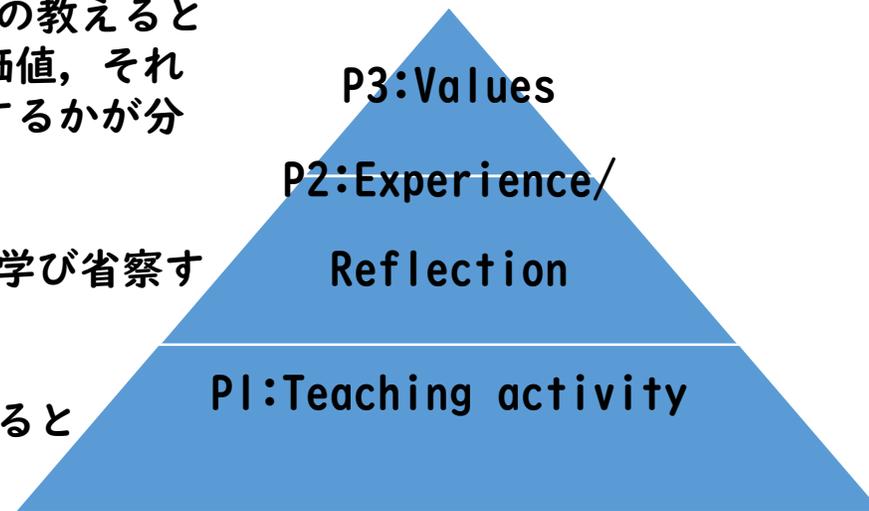


- 教員免許取得のためには、学士課程3年、修士課程2年を修了しなければならない。
- 毎年、約5週間の教育実習を行わなければならない。1年目は、観察が中心で、回を重ねていくにしたがって、補助指導ができるようになり、さらに単独指導と発展していく。
- 教育実習では、Practice とTheoryの統合 (PT project) によって指導がなされる (右の図を参照)。
- 教育実習の指導は、各教育訓練校にいるSupervisor (実習指導者) が担当する。この実習指導者になるためには、資格が必要であり、この資格を持っていると採用時に有利になるため取得率は高い (2年間をかけて休日の講習)

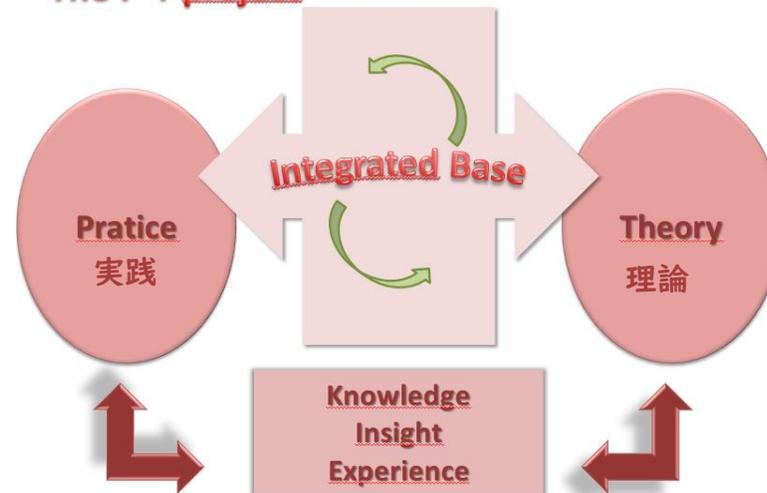
P3:それぞれの教えるということの価値, それ  
が何を意味するかが分  
かること

P2:経験から学び省察す  
ること

P1:まず教えるとい  
うこと



### The P-T project



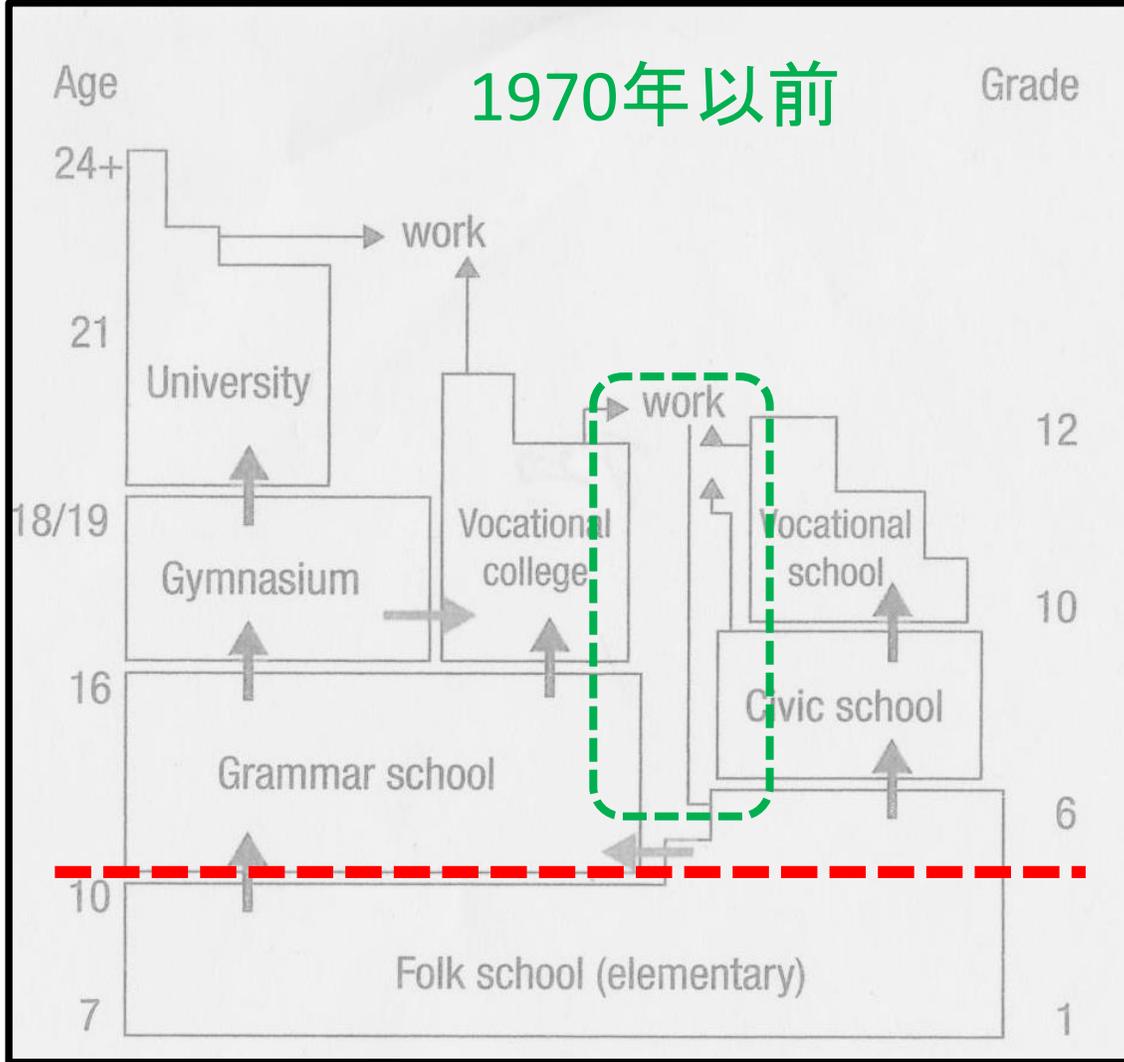
知識, 洞察力, 経験

右図: Leading principal at Vasa Teacher Training School

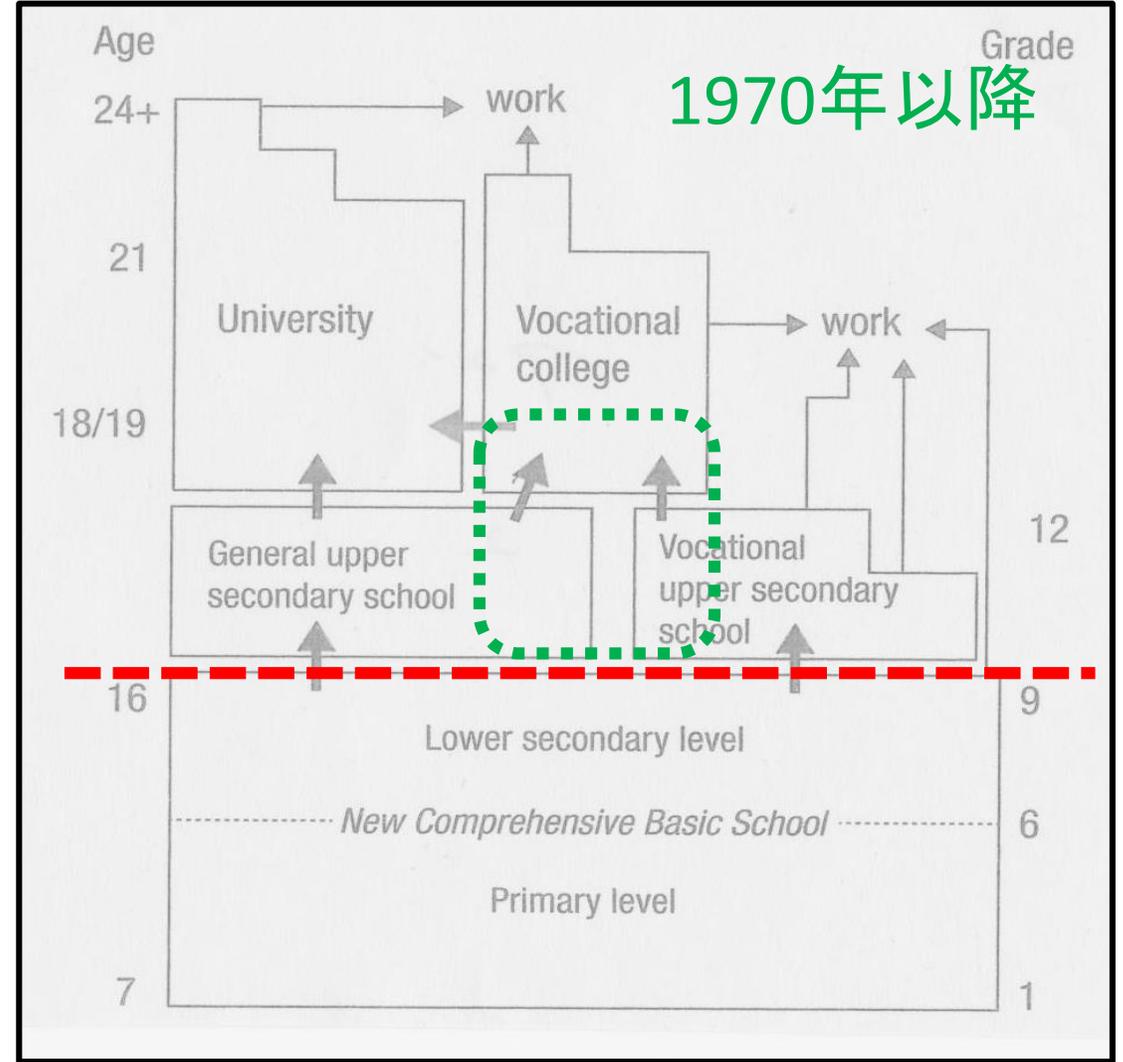
Gun Jakobssonの講話 (2014) スライド内の図を一部改変

HATO教員養成シンポジウム、宍戸隆之、2017

## 資料② 教育制度の変遷



1955～1970年頃は、**10歳で**、進学 (Grammar S)か、市民学校 (Civic S)→職業学校 かに振り分けられた。



1970年～に、**16歳まで均等**になり、進学 (Grammar S S)か、職業学校 (Vocational S S)かに振り分けられた。

## 資料③ 教育制度の変遷

誰が？ FPSTA (フィンランド小学校教員連合) が5年間の国民的議論のもと提案し 社会の力が教育政策に大きな影響を与えた→知識基盤社会の基礎になる

中学校入学者が増えた

34,000人(1956年) → 32,4000人(1970年)



Basic Education for Children

全ての学校で可能な Robotic Week 2018

全ての生徒に同じ教育を与えても同じ成果が出るとは限らないが、フィンランドは産業国家を目指し、将来に何をを目指すかはわからない、全ての子供に16歳までの教育を等しく準備する Aho, et al., 2006



# 資料④ 教員採用試験

## ユバスキュラ大学教育学部 K,Matti,Ph.D. より

(Interviewed by Kashiwagi,2019)

### 1、教育学部に入る関門 (フィンランド)

フィンランドで教師になるにはまず、教育学部の教員養成学科に入学しなければならない。教員になりたい人は、全国統一の筆記試験がある。筆記試験の内容は、教育5分野の専門書を読み、1) 基本事項のチェックについて、2) テーマのある長文エッセイを書く (つまり高校修了時)。フィンランド全国の教育学部を合わせると、約**8000人**の志願者が**3000人**に絞られる。

次に各大学で、コース別 (小学校担任か、中学以上の教科担任) で、筆記試験が行われる。ここで、**1000人**程度まで絞られる。個人面接とグループディスカッションで数人の試験官が独自に採点した結果を集計し、**数百人**の合格者を決める。入試倍率は**13倍**ということだ。(年号によって違うので注意)

### 2、教員資格条件

クラス担当教員 (初等教育レベル)

一教育に関する修士号 所定の単位 フィンランド語 (スウェーデン語)

教科担当教員 (前期中等教育レベル)

一修士号以上 主専攻の教科 所定の単位 (同上)

### 3、採用は各教育委員会 校長裁量 (3~5年契約)



学校間の引き抜きもある。

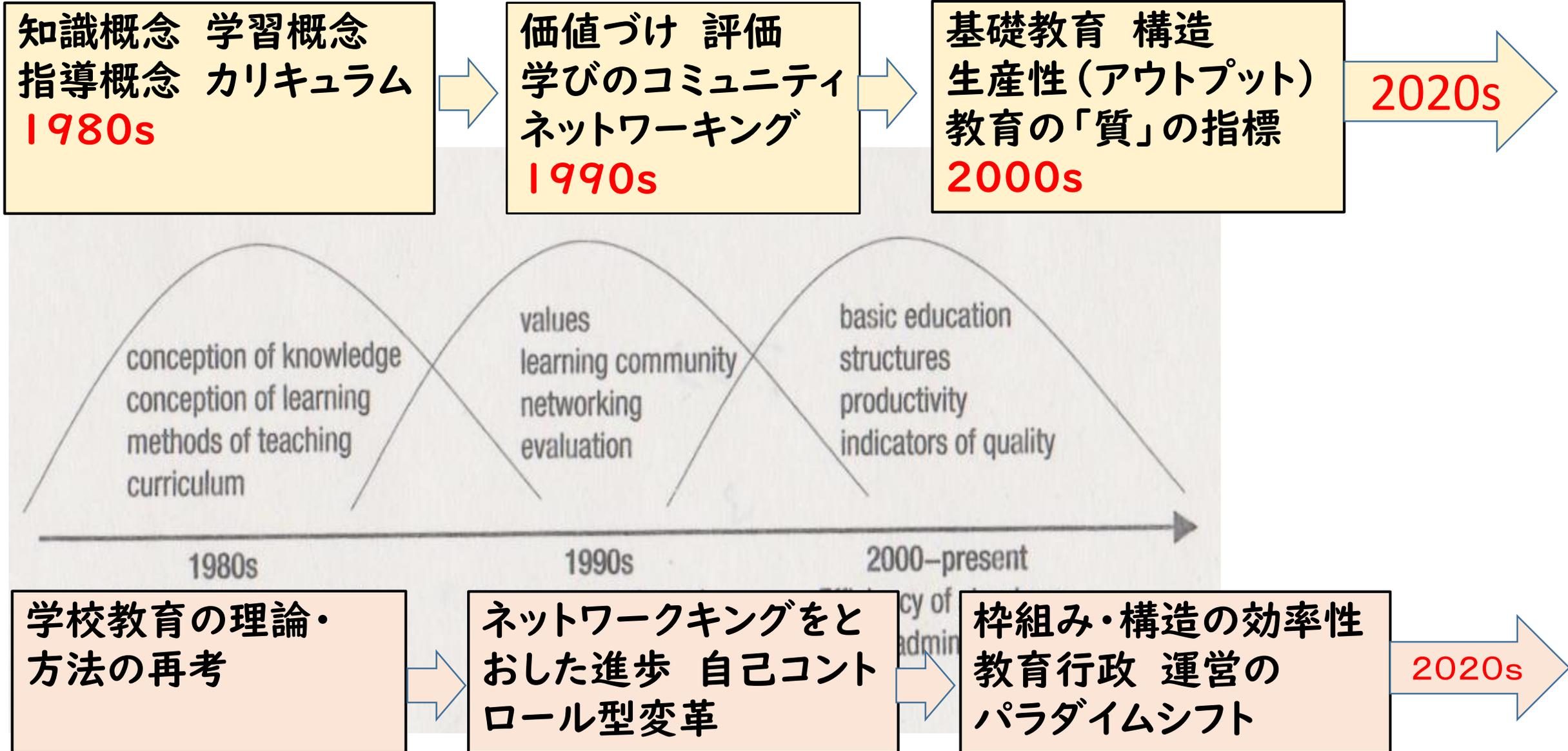
## 資料⑤ 大きな教育改革 1995年

教育改革:

**学校に教育に関する決定権を移譲する**教育改革を推進している。その趣旨は、学校を取り巻く地域社会のニーズに学校が速やかに対応できるように、決定権を出来るだけ学校現場に移譲するというもの。

⇒ これにより、全国カリキュラムガイドライン(教育目標、各教科の総授業時間(前期6年間、後期3年間でまるまるという定め方)は教育省が策定し、週当たりの各授業時間等は自治体又は学校が、**勤務校の教育課程の編成及び教科書の選定の決定権は教員が持つこと**になった。

# 資料⑥ 改革の連続 1980年-1990年—2000年-2020年



# 資料⑦ 2016年(フィンランド学習指導要領)

## 2016 Seven Transversal Skills

## 2016 7つの転移可能なスキル 【人間や市民としての発展】



### Rethinking competences

National Goals for  
Basic Education  
and Transversal  
Competences

- ◆ knowledge
- ◆ skills
- ◆ values
- ◆ attitudes
- ◆ will



T1 学ぶための思考と学習

T2 文化的な能力 対話と表現

T3 自己管理と他者ケア 日常活動の管理 計画

T4 マルチリテラシー 多様な読み書き、文化的コミュニケーションを理解し、アイデンティティを構築

T5 ICT能力 創造的にICTをもちいる

T6 社会や仕事 起業家精神に関する能力

T7 持続可能な未来作りへの参加と影響

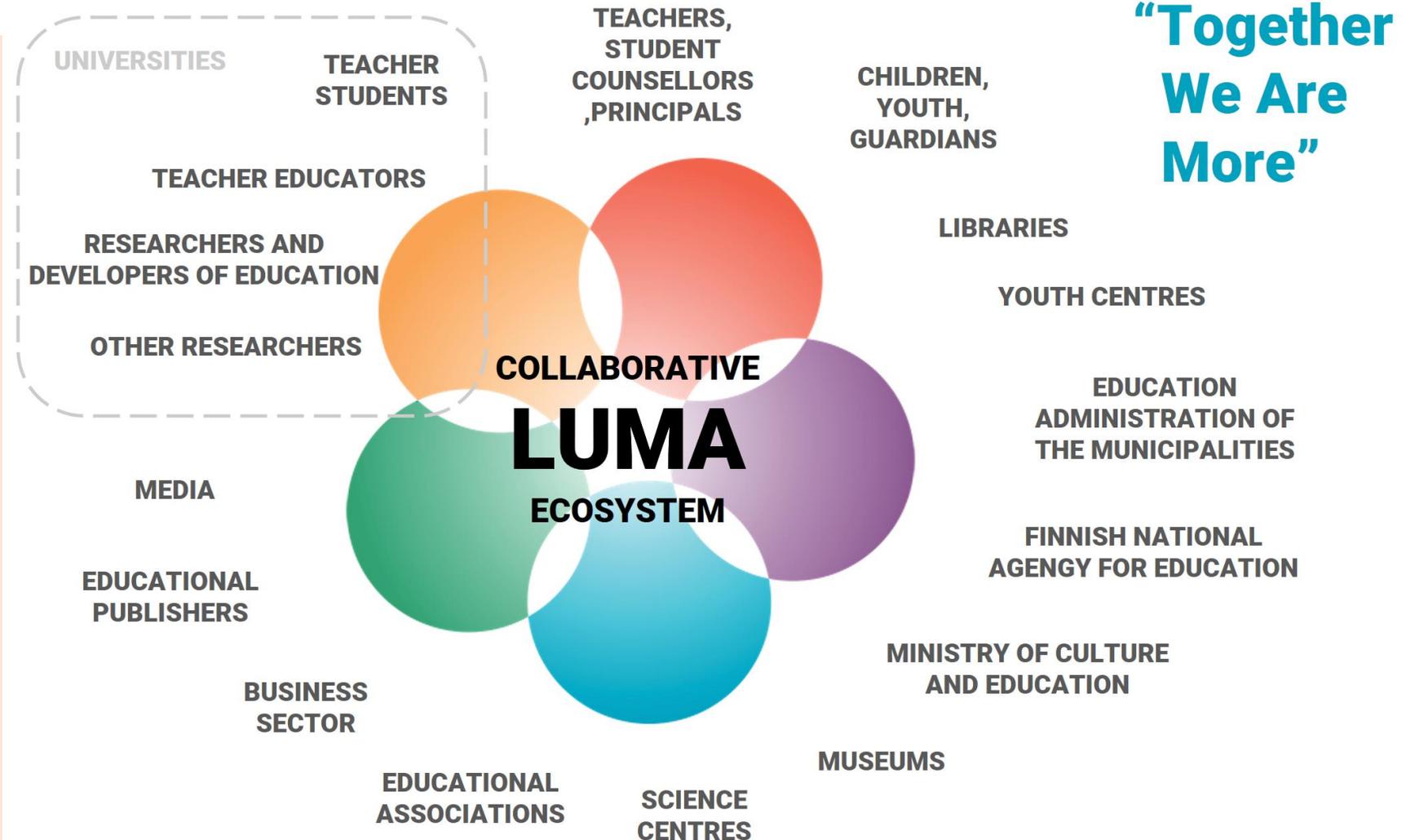
2020年

# Phenomenon-based Curriculum

(フィンランド新学習指導要領2020 検討中)

## Rubric

- 1) Holisticity
  - 360° perspective
- 2) Authenticity
  - correspond the real world
  - knowledge is used.
- 3) Contextuality
  - natural context is used
  - learners work on the vague and ambiguous, not pre-defined(phenomenon>not the problem was set)
- 4) Problem based inquiry learning
- 5) Learning process
  - The aim is to facilitate students to learning something new.

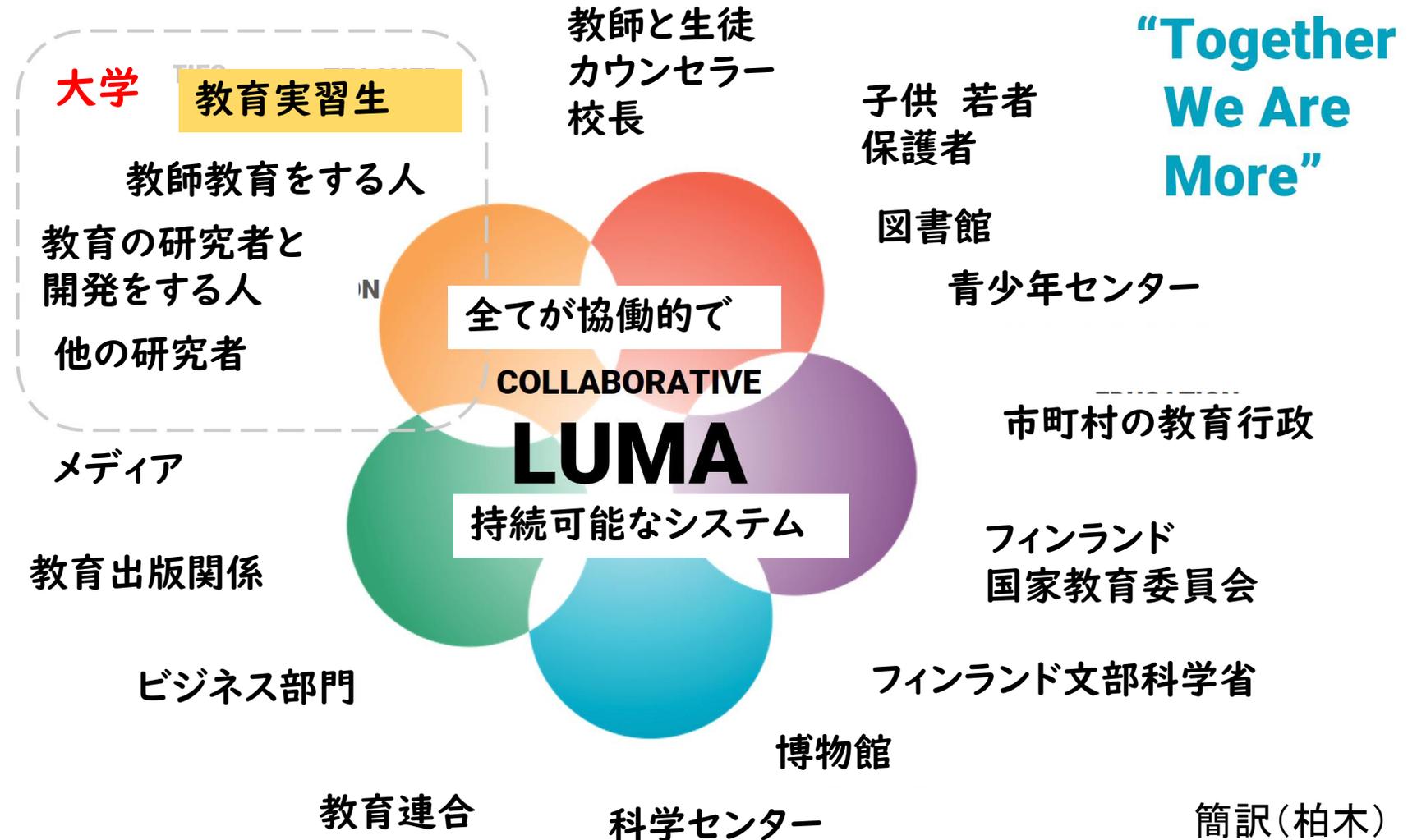


# 資料⑧ 2020 現象ベースの学習 Phenomenon-based Curriculum

## Rubric

- 1) 全体的・包括的  
-360° の視野
- 2) 真正性  
-実際の世界・社会に直結  
-知識を使うように
- 3) 自然な文脈で  
-生徒は、曖昧で明確でない  
=前もって定義されていない問題を考える 本当の現象はセットされないから
- 4) 必要性のある問題解決
- 5) 学習のプロセス  
目的は、生徒が新しい何かを学ぶことをファシリテートすること

# (フィンランド新学習指導要領2020 検討中)



簡訳(柏木)

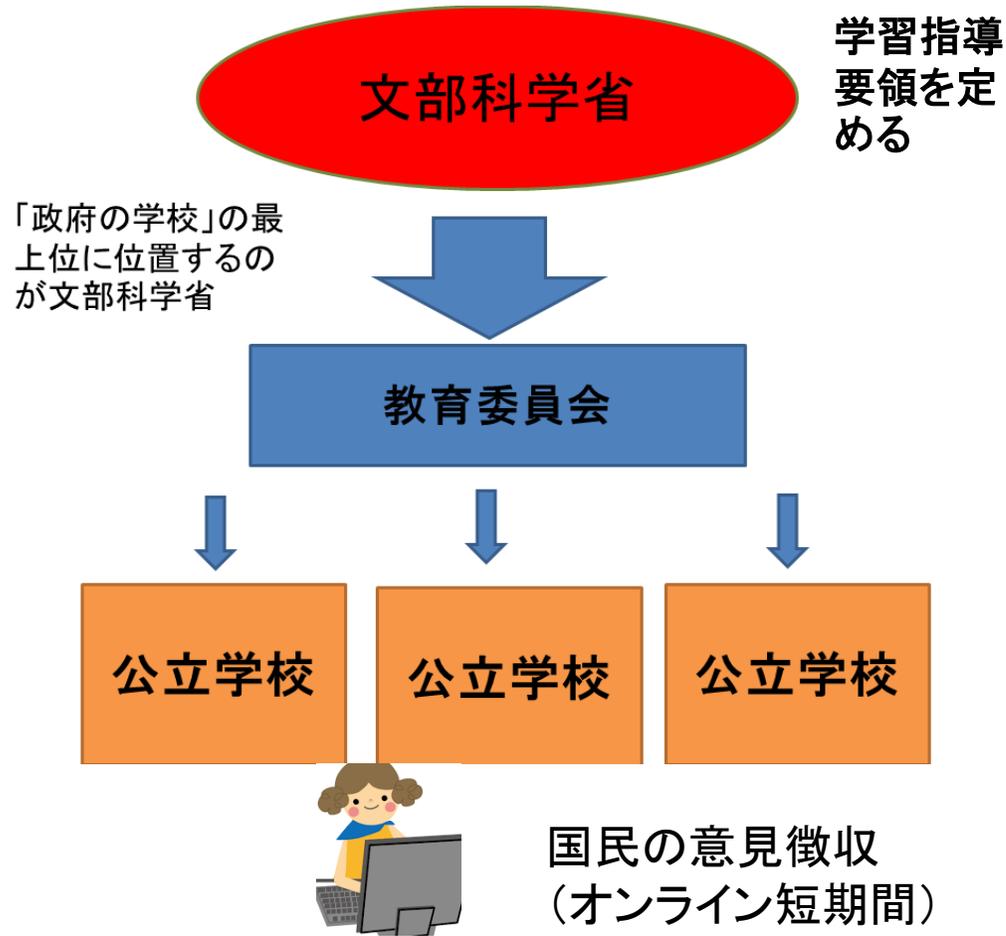
# Phenomenon Based Learning (PhenoBL)

- 1 全体的な現実世界の現象が学習の出発点となる
- 2 実際の文脈で研究され、情報とスキルを活用する  
(For digital age)

例：人間、欧州連合、メディアとテクノロジー、水やエネルギーなどの話題

興味のある方はこちらを→PHenoBL Learningの映像  
<https://www.bbc.com/news/world-europe-39889523>

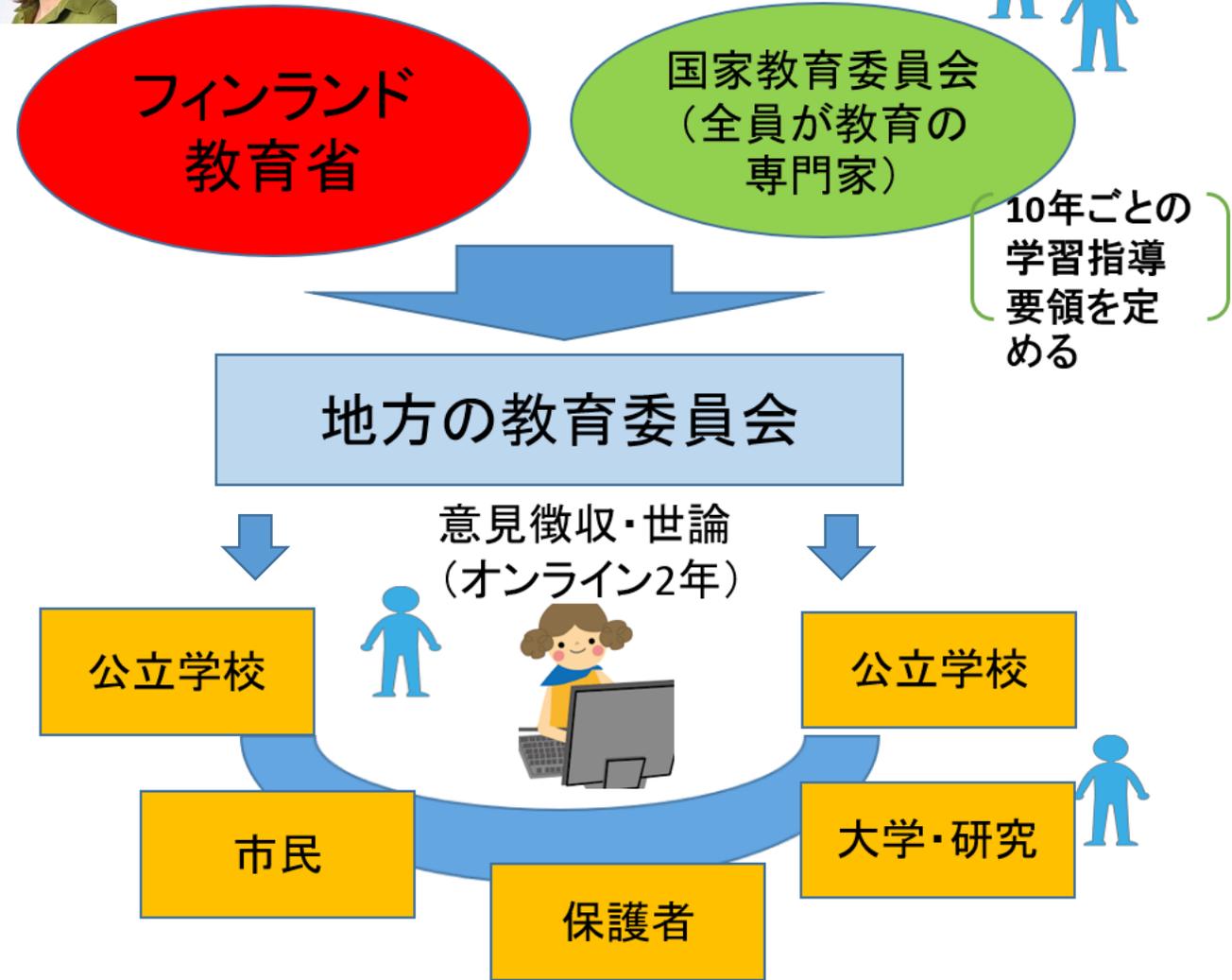
# 資料⑨ 教育システム(日本)



# 教育システム(フィンランド)



Minister of Science and Culture 2019~  
Hanna Kosonen, MA. 研究・図書館・博物館等



## 資料⑩ 教師としてのキャリア

## Teachers as researchers



### 教師の職業人気は、

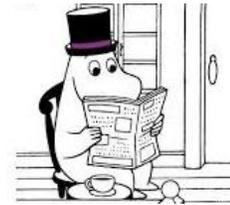
- ・信頼と協働が可能
- ・未来のため学べる職業
- ・教員研修でスキルアップ
- ・トップやボトムスクールは存在せず、生徒のために仕事ができる
- ・生涯出来る仕事
- ・良い給料と遣り甲斐が他に見つかれば転職もする。  
(50%は5年間に離職)
- ・採用は校長裁量で再受験可能

フィンランド教育相と教員連盟は共同で、集中教員研修を提供

# 「問い:何が影響して教育改革が進んだのか。」

大戦後の焼け野原や、孤児の問題に苦しんだ。  
都市と田舎では、大きな教育格差があった。

(Sahlberg,2010)



歴史評論家  
Moomin Papa

1945年

変化

2019年

世界に開いていく必要性→グローバル化

隣国との共存と発展→独立の大切さ

少ない労働人口→進路選択の柔軟性へ

学校間・地域間の格差を無くし、学力の保証

議員の20%は教育者や教員出身→公費を教育へ

2002年～競争・成果主義を選択した国々と別の道を歩んだ

(福田,2007)

# 資料⑪ 世界大戦のつめあと デモクラシーへの痛感



今は幸せの象徴に  
ロバニエミの  
サンタクロース村

2大国の間で  
揺れた続けた歴史



独立記念日の トーチに  
参加 12月6日  
学生たちの真剣さを知  
る。



平和について学ぶ授業  
(CLIL: 硬貨の裏側×  
切手×独立の歴史  
In English)

# 21世紀型スキル育成をめざす世界の学校で、今、課題となっていること→

## 21世紀の学校教育における、**目的**と**実情**の乖離

トップダウンで先進的教育改革が提唱されたとしても、それが達成されることは難しいと指摘されている(Calvert, 2016)。目的と実情が大きく離れてしまえば、日本の学校現場側にも諦念が広がることが懸念されるであろう。



ではどうやって?

# フィールド実践研究 編

## Teacher Agency (運営行為への価値感)

スクールリーダーは、多様化する社会について複合的視野を持ち、自らの職（校長や教育リーダー）としてのキャリアと持続可能な地球社会への貢献をするという考え（Teacher Agency）のもと、リーダー相互協働と、企業・多機関連携プログラムを深める

(フィンランド ユバスキュラ大学における研究)

Japannin, 2017

Hallinger and Heck, 2010

**問い** 教師のTeacher Agencyはどう発達し変容するのだろうか？

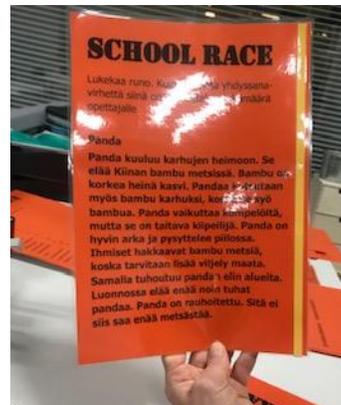
# 事例Ⅰ 国語 (K, Leena先生) (小4 10歳 2クラス合同 Co-Teaching)



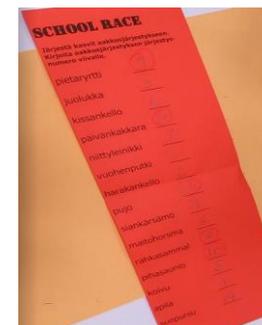
目当ての提示



内容はグループで読む



Task 1 協力してアルファベット順に

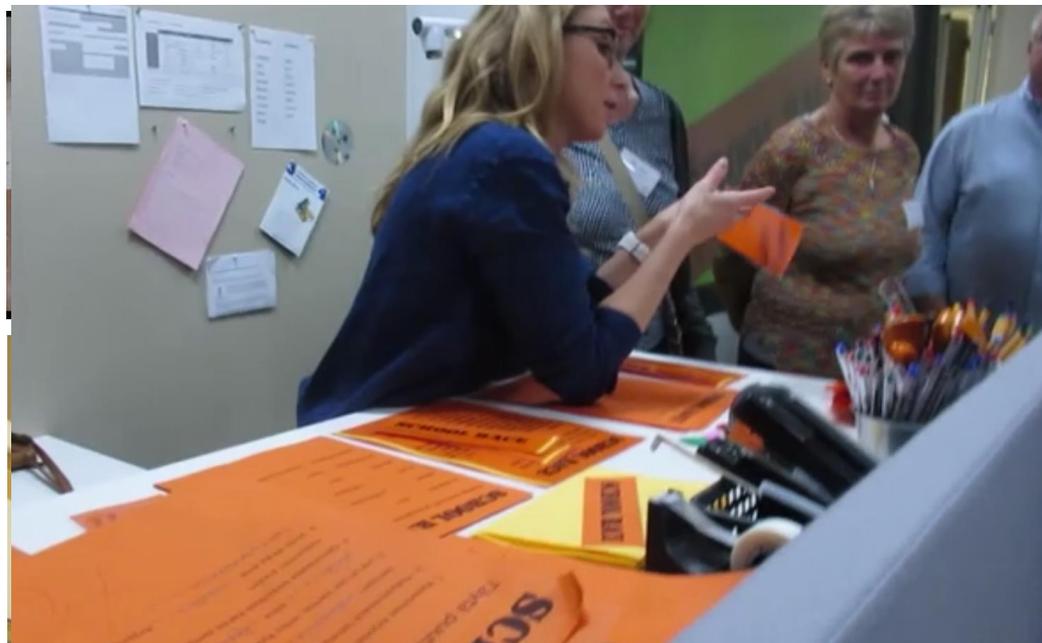


Task 1-7 Fi語の文のルールに気づく

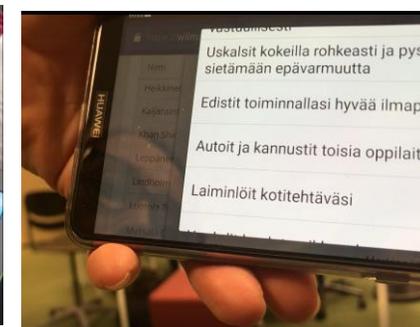


問いについて、グループワーク

Task を解決してはLeena先生がそれぞれにフィードバック



この間、ドイツからの訪問者に授業の意図を伝達



保護者にも、Ongoingの (今) 評価・助言 WILMA アプリ

まとめと自己省察にじっくりかける。

ビデオ（国語 ファンクショナル・ラーニング） 3分半

見る観点→**学びの環境** **教師のファシリテーション** **Teacher Agency**

# 事例Ⅰ 国語 (K, Leena先生)

## School Race

Leena先生が出すCue (問い) を読み、グループで協力して生きた語彙を学び、母語の言語機能、文法の特徴に気づかせる。

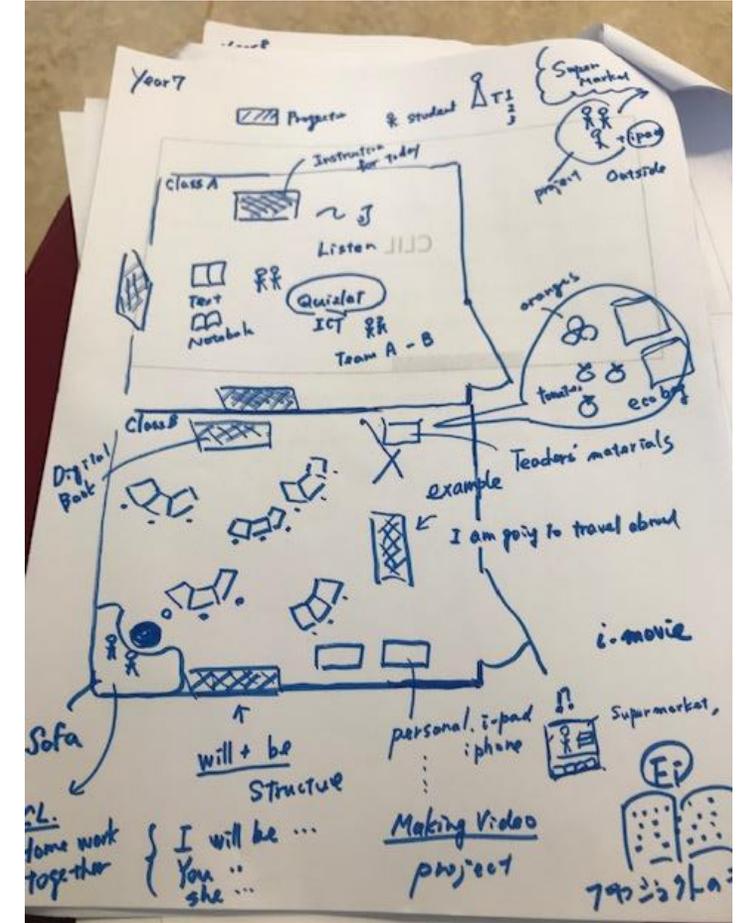
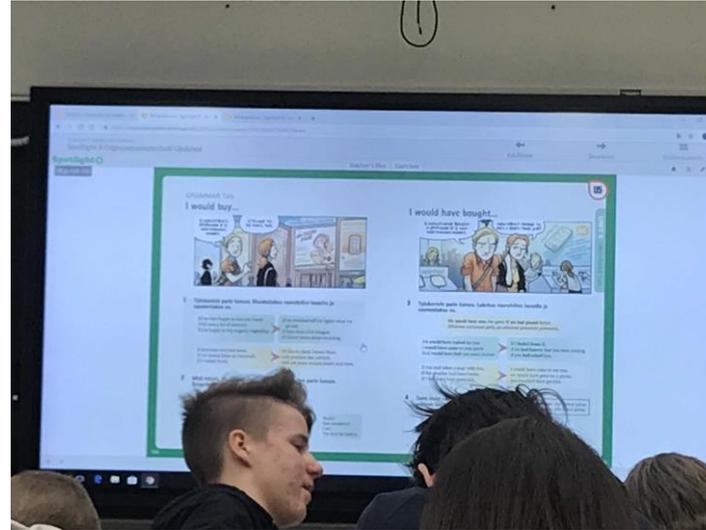
- 1) 2020学習指導要領の変遷を理解した、**Functional Learning (FL)**としての位置づけ
- 2) 自分がグループにどう貢献できたかについて、12個の観点の評価項目を理解し、自己評価をする前に話し合い省察 (**グループスキル・省察と学習者の自律性**)
- 3) 1人一台のタブレットを使い、学校の様々な場所で写真とレポートをアップロードする (**ICTを創造的に活用**)
- 4) WILMA (デジタル評価ツール) で保護者にReal Timeに近い形で、生徒の達成を褒めたり助言をしたりする。**教師—生徒—保護者**と、3者を結んで学びを高める (**教師一人の自己コントロール型努力を抜けている**)

2020年学習指導要領において、先生らと **Phenomenon-based learning** (現象ベースの学習) を創り出している。

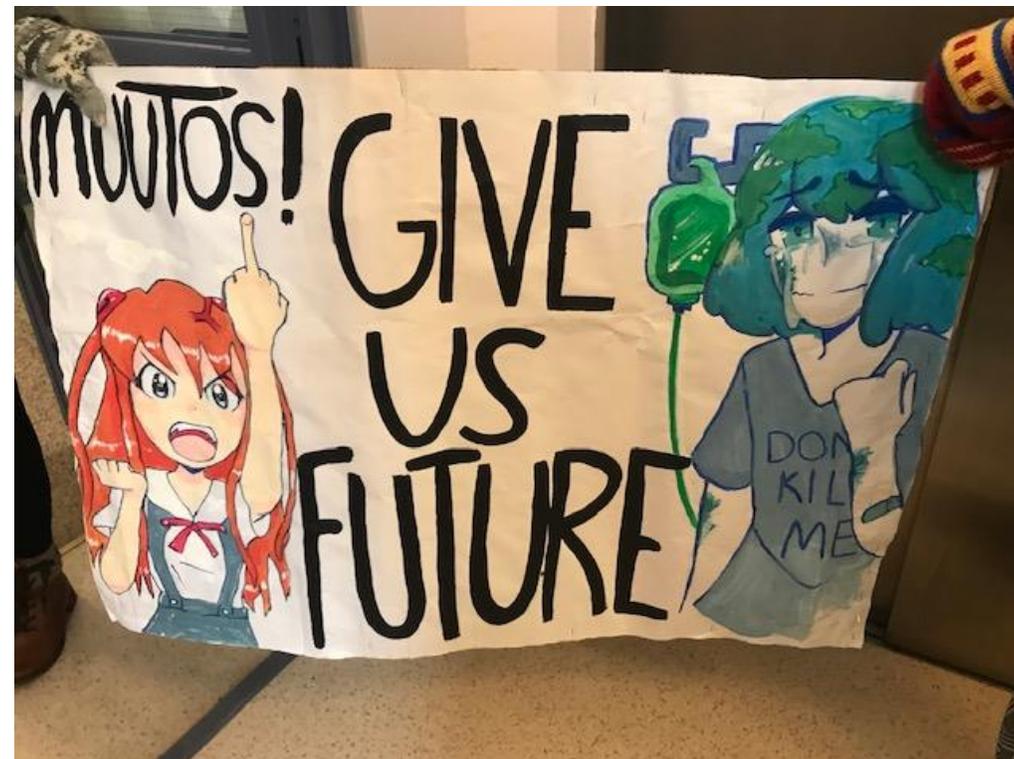
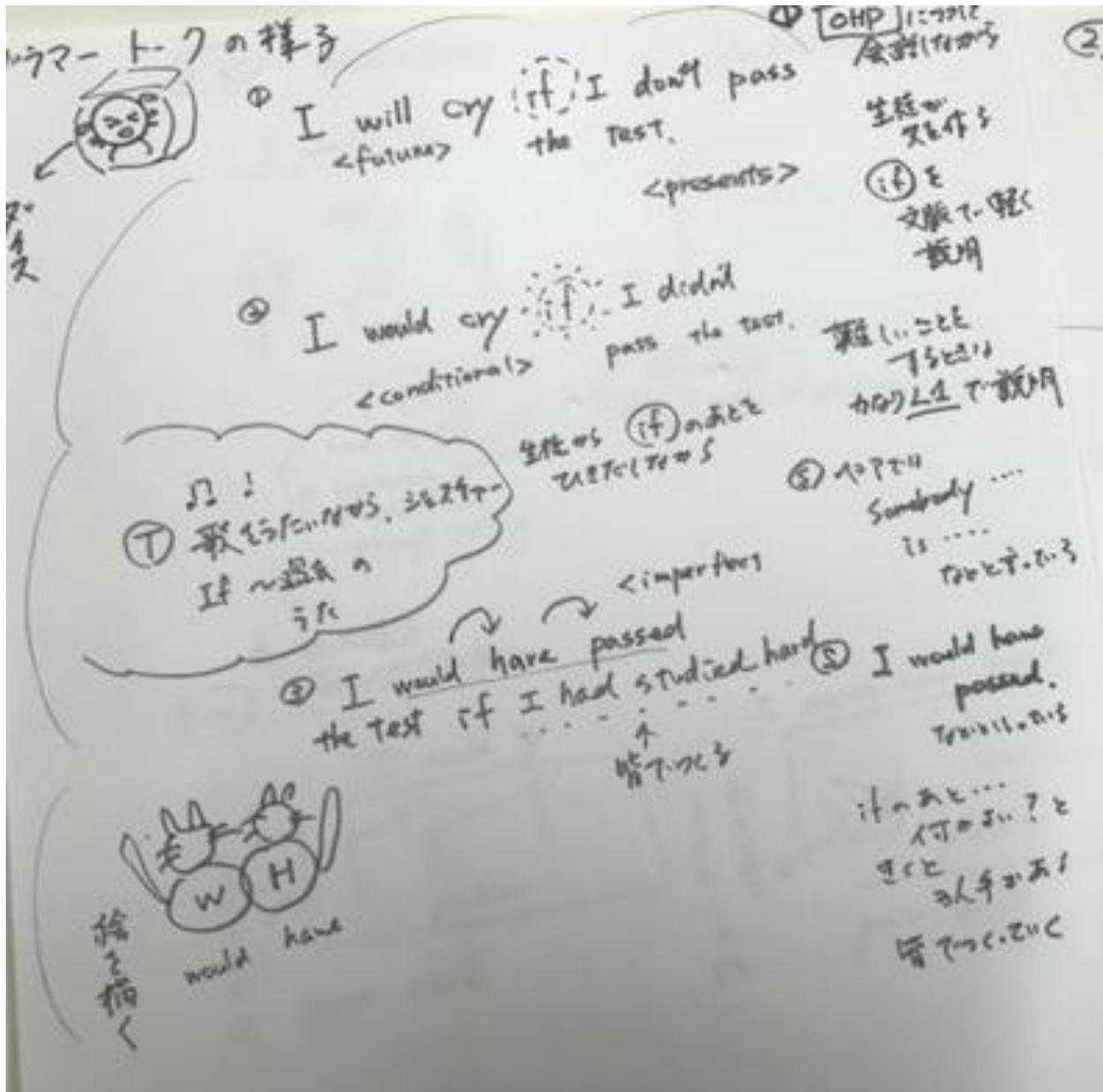
## 評価の中心

- 1) この活動で友達の良いを見つけられたか
- 2) 自分の役割を果たせたか
- 3) 皆おなじぐらい以上力を出せたか?
- 4) 自分から行動できたか

# 事例2 中学校英語 (14歳 2クラス合同 Co-Teaching)



# 柏木メモ 先生の「グラマー・トーク」



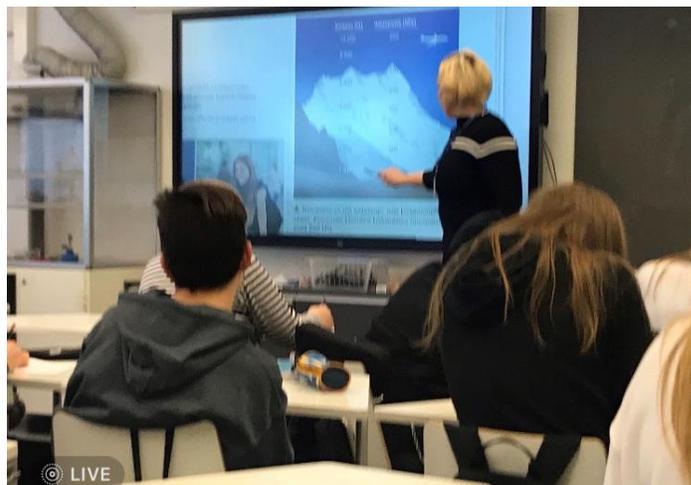
使えるようになってきた英語の文法について、会話をしながら、スキーマを活性化して、構造をおさえていく（帰納法）。（例文は、皆で一緒に作る）

I **would have** passed the test if I had studied hard.

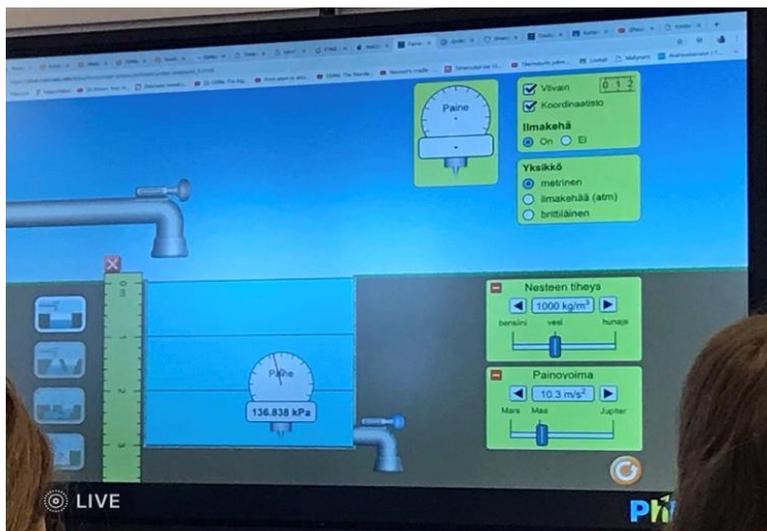
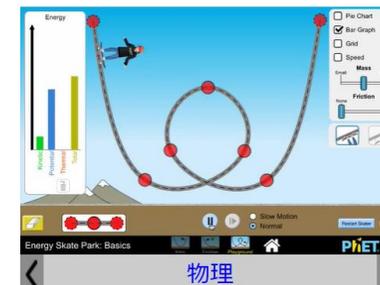
# 事例3 中学校理科（「圧力」と「単位当たり」）（中2 14歳）



デシケータ（実験器具）  
真空の演技実験



物理・数学で  
使いこなすシュミレーター

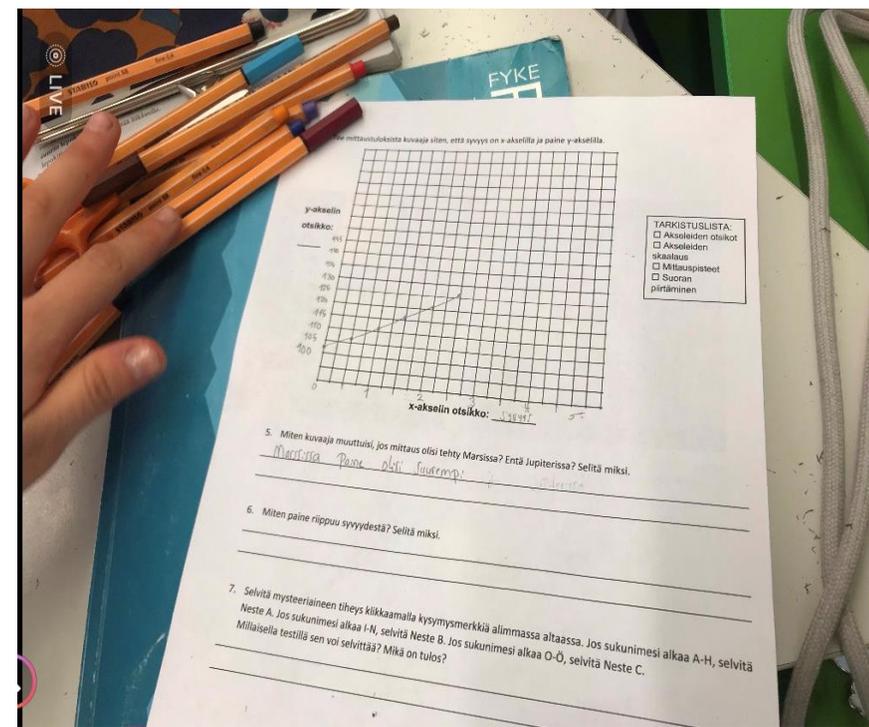


静水圧のシュミレーションソフト



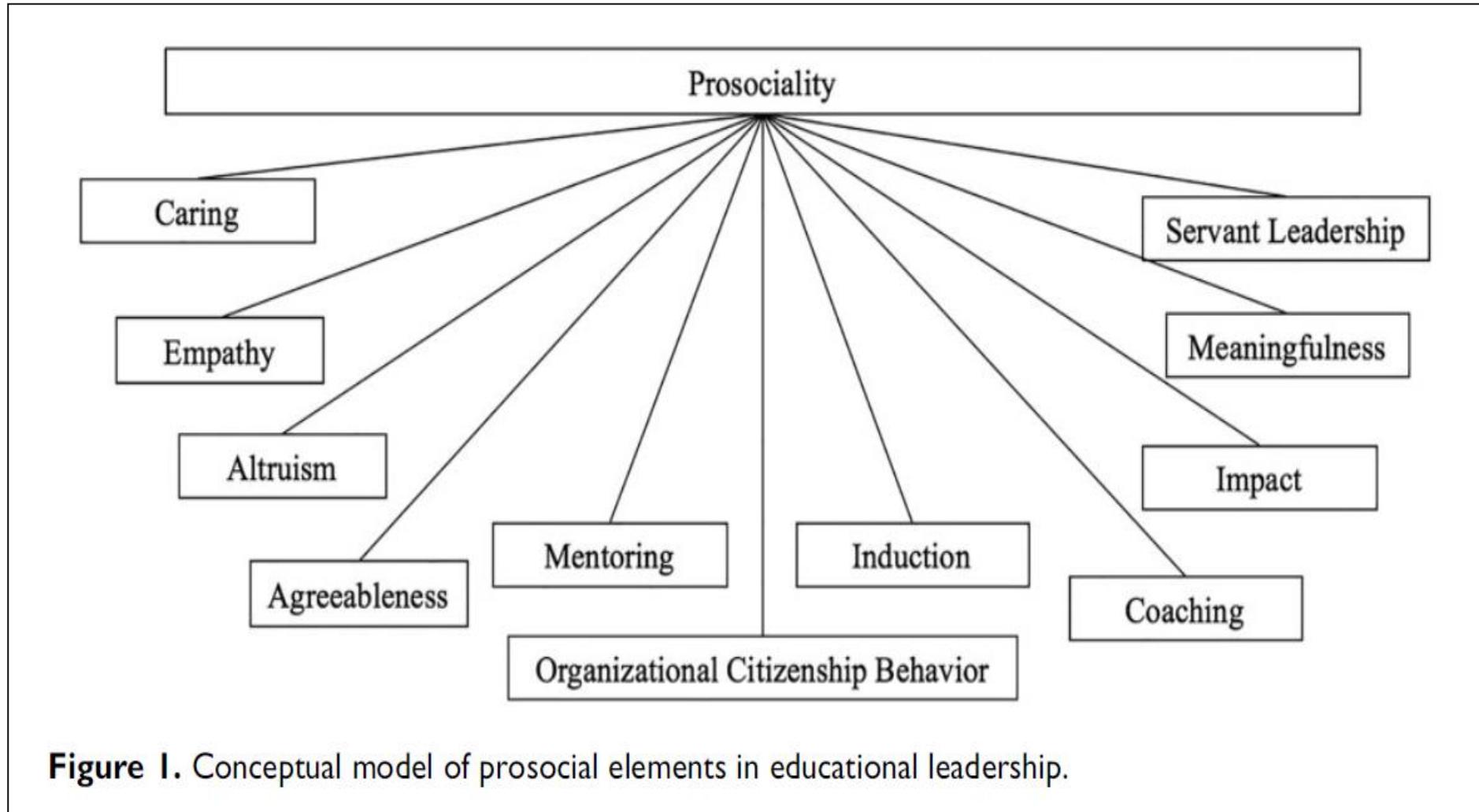
<https://phet.colorado.edu/>

PheT コロラド大学開発  
INTERACTIVE シミュレーション  
科学と数学FOR → 探究と発見



生徒の作図と、プロセス記述

# 教師のTeacher Agencyを変容される要因とは？（仮説）



Yada, T., Jappinenn, A..(2018).

言葉の学習を観察して、CLIL（内容言語統合型学習）と、教員養成を探究に行き、それらの良さは、フィンランドの教育の氷山の一角に過ぎないと分かった、半年間でした。

同じ北ヨーロッパの国々のそれぞれの教育と、フィンランドの教育の異なりに衝撃を受けた後半3か月でもありました。

# まとめ

その国・その学校らしさ、出来ていることを、科学的データに基づいて、精選してみる。

教師が、生徒が、社会のためにディスカッション。繋がったり、ほどけたりするKnot Workingをしてみる。

固定化した組織から、しなやかな即興の協働へ

自らのTeacher Agencyを探してみる。小さな改革をはじめてみる。

Global Contactを経験してみる。  
(異文化間のコンタクト)

後期 共に考えませんか。  
水曜「グローバル時代の教師」  
木曜「グローバル・リテラシー」

# 主な参考文献

- Biesta, G., Priestley, M. & Robinson, S. (2015). The Role of Beliefs in Teacher Agency. *Teachers and Teaching: Theory and Practice*, 21(6).624-640.
- Emirbayer, M. & Mische, A., (1998) What is agency?, *The American Journal of Sociology*, 103, 962-1023.
- Moate, J. (2017). Teacher agency within the Finnish CLIL context: tensions and resources. *International Journal of Bilingual Education and Bilingualism*, 65, 61-7
- Sahlberg, P. (2011). *Finnish Lessons*, New York and London: Teachers College, Columbia University.
- Yada, T., Jappinenn, A..(2018). A systematic narrative review of prosociality in educational leadership, *Educational Management Administration & Leadership*, doi: 10.1177/1741143218768579
- 福田誠治 (2007) 競争しても学力行き止まり 東京：朝日新聞社
- PISA OECD <http://www.oecd.org/pisa/>
- PISA調査2015年 (国立教育政策研究所) <https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/index.html>
- Hayashi, K. (2015) . Edu-Port <http://shinshuedu.blogspot.com/2015/09/blog-post.html> ポスター発表

世界の教育・教材 等→柏木賀津子 ホームページへ<https://www.kashiwagi-lab.com/>

ご清聴ありがとうございました。



**Are you a postdoctoral researcher thinking about your next career move? Or are you considering applying to be an Academy Research Fellow? Do you have a promising or excellent track record and an exciting research idea?**



Choose Jyväskylä as the next stop in your personal scientific journey and your next research environment. Photo Nina Huisman.

There will be research posts for **Postdoctoral Researcher** or **Academy Research Fellow** open in the September call of the **Academy of Finland**. Those posts can be applied for only for a Finnish university. The **Academy of Finland mobility requirement may be a reason to change your university**. Choose Jyväskylä as the next stop in your personal scientific journey and your next research environment. JYU gives you the opportunity to challenge yourself, successfully carry out your research project

and progress in your career. Join us - you will not regret your decision!